

関西医大総合医療センターだより

号外

# With you

TAKE  
FREE

特集

非常時の総合医療センター



関西医科大学総合医療センター  
KANSAI MEDICAL UNIVERSITY MEDICAL CENTER



# 新型コロナウイルス感染症との戦い



## （新型コロナウイルス感染症の診療について）

我々のコロナ診療は、2020年2月の帰国者・接触者外来の開設に始まり、ほどこなく地域でクラスターが発生し、初のPCR陽性患者と接しましたが、それから数週間自宅に戻ることができないくらいに恐怖でした。3月24日に1例目の重症患者が紹介されてきました。肺炎が肺全体に拡がり、人工呼吸器を装着して1週間が経過しましたが、全く改善がみられませんでした。重症患者の診療経験からこの肺炎の病態は炎症であること、肺炎は背側中心であること、自発呼吸が肺炎の悪化を招くことなどに気付きました。今では常識となったステロイド投与、腹臥位、深鎮静での人工呼吸管理を行い、救命することができました。大病院は標準治療を行うところではなく、標準治療を見つけないところであるという信念が生かされました。

第2波、第3波になると、抗炎症治療として現在ではWHOも推奨する薬剤を追加しました。第3波では、84名の重症患者を受入れ、死亡率は20%に低下しました。

第4波では、完全に重症患者数が確保病床を上回りました。自宅で苦しむ方は、救急要請しても行き場がありませんでした。そこで当院では救急車のトリアージを開始しました。日中は救急搬送された方の画像評価と初期治療を行い病状に合った医療機関に転院。夜間は受け入れ医療機関が激減するため当院に入院とし、翌日の転院を目指しました。一日最大11名(うち挿管患者7名)を受入れ

ました。医師は夜間も6名体制で診療にあたりました。155名の重症患者を受入れました。第5波に突入するに際して考えたことは、重症化してから治療を開始しても30%前後の患者さんは治療後の経過があまりよくなく、重症化させない治療を行うべきだということです。そんな折に抗体カクテル療法が認可されました。一日でも早く、一人でも多くの患者さんに届けようと、入院でも、外来でも、ホテルでも投与し続けました。大阪府の新型コロナウイルスによる死亡率が改善に少し役立てたかと思えます。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックという未曾有の事態に対して、当院は大病院としての使命、また救急医療最後の砦である救命救急センターとしての使命を果たし、多くの府民の命を守ることができたと自負しております。当院の結束力、行動力は並外れており、診療リーダーを務めてきた私にとっても、誇らしいかぎりであります。恐怖に打ち勝ち献身的に診療に携わってくれた多くのスタッフに敬意を表したいと思います。



救急医学科部長  
中森 靖 先生



新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)は、2019年の少なくとも後半には感染流行の口火が切られていたと推定されます。2002・2003年の重症急性呼吸器症候群(以下、SARS)流行時にWHOと中国衛生部との合同調査で山西省に入った私にとって、2020年元旦に広東省在住の友人から、「中国の南の方で変なかげみなの流行っているらしい」と短報を受け取った時、嫌な予感が胸中に広がるのを禁じ得ませんでした。流行当初は手探り状態であったものの、SARSは世界で感染者数が7,000人を超えるのに82日間を要したのに対し、COVID-19ではわずか30日間という短期間で、数か月も経たないうちにほぼ地球全域でその流行が拡大しました。SARSと似ているようであり、また全く異なる特徴もあり、世界中にその災禍をもたらすこととなりました。

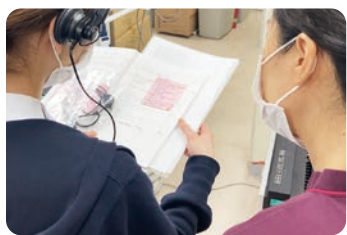
方からの受け入れ要請に応えることもありました。また、当該保健所や大阪市の各地域保健センターとも双方方向での連絡を行いつつ、地域住民の方々への適切な対応が行えるよう尽力してきました。この2年以上の期間、地域における医療の破綻を起こすことなく、地域社会に医療サービスを提供し続けることができたのは、診療や検査、ケアに携わるスタッフを始め、全従業員が「筆舌に尽くしがたい」労力を捧げて対応に取り組んでこられた賜物だと思います。

当院では地域住民の健康を守るべくCOVID-19重症者を中心に24時間365日途切れることのない受け入れを行い、国内の大病院の中でも相当数の重症患者の治療を行っている病院の一つとなっています。時にはかなり遠



各医療機関で行いうる役割をしっかりと果たすことが求められており、当院は特に重症部門での診療に力を注ぎ、また、遺伝子解析などを含めたより詳細な検査体制を整え、地域社会を守る一翼としての存在意義を示していくべきであると考えます。

## （with コロナ時代の当院に求められること）



365日途切れることのない受け入れを行い、国内の大病院の中でも相当数の重症患者の治療を行っている病院の一つとなっています。時にはかなり遠



感染制御部部長  
三島 伸介 先生





# 当院の基本方針等を変更しました

2022年4月1日付で、以下のとおり、当院の基本方針及び患者さんの権利の見直しを行いました。  
また、子どもの患者さんの権利を追加しました。



## 関西医科大学総合医療センター KANSAI MEDICAL UNIVERSITY MEDICAL CENTER

### 【基本方針】

- 1.患者さんの権利を尊重し、患者さん中心の全人的医療を実践します。
- 2.常に安全に配慮した医療環境のもとで、高い水準の医療を提供します。
- 3.地域の基幹病院として、救急医療、急性期医療に取り組みます。
- 4.災害拠点病院、地域医療支援病院としての役割を果たし、地域医療に貢献します。
- 5.地域の医療機関や介護施設と連携を深め、地域住民の医療・介護体制の充実に努めます。
- 6.日々の診療を通し、人間性豊かな医療人を養成します。
- 7.健全で安定した経営に努め、働きがいのある職場環境づくりを推進します。

### 【患者さんの権利】

- 1.一人ひとりが個人として尊重され、分け隔てなく、思いやりのある医療を平等に受ける権利
- 2.安全に配慮した良質な医療を受ける権利
- 3.医師や医療者から十分な説明と情報を受け、自らの意思で検査・治療方法などを決定する権利
- 4.医療費明細の報告、及び医療費と福祉の公的援助に関する情報を受ける権利
- 5.他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞く権利
- 6.医療等の記録を閲覧する権利
- 7.個人情報やプライバシーが保護される権利
- 8.臨床研究や治験への協力を拒否する権利

### 【子どもの患者さんの権利】

- 1.子どもが生きるために、適切でよい医療を受けることができる権利
- 2.入院中も、成長や発達に必要な教育やケアを受けることができる権利
- 3.プライバシーが守られ、安心した環境で医療を受けることができる権利
- 4.病気や治療について、理解に応じた説明を受けることができる権利

# コロナウイルス感染症

## オミクロン株の特徴やその感染対策について

オミクロン株とは、2021年11月24日に南アフリカから報告された新型コロナウイルス変異株の1種で、WHOは11月26日に「懸念される変異株 (Variant of Concern; VOC)」と位置づけ、ギリシャ文字順に「オミクロン」と名付けられました。

オミクロン株は、感染してから発症するまでの潜伏期間が短いのが特徴で、平均潜伏期間は約3日、6日後までに約90%が発症します。また、「ある人が感染してからほかの人に感染させるまでの期間」＝「世代時間」も短く、デルタ株5日に対し、オミクロン株では約2日と、急速に感染が拡大している要因の1つとされています。

一方、重症化はデルタ株と比較し低い

傾向にあります。英国イペリアルカレッジは、一晚以上入院するリスクは40～45%低いとし、エディンバラ大学もデルタ株に比べて入院するリスクが3分の2低下していると発表しています。デンマークも、他の株が1.6%入院に対しオミクロン株感染者の入院率は0.6%としています。ただし、我々の接種しているmRNAワクチンに対する効果が減弱していることからブースター接種が必要となります。

オミクロン株の系統の1つで「BA.2」(ヨーロッパではステルス・オミクロンと呼称)と呼ばれる変異ウイルスが注目されていますが、BA.2の実行再生産数がBA.1よりも18%高いことが示されており、今後注意が必要となります。



関西医科大学 内科学第一講座  
呼吸器感染症・アレルギー科 診療教授

宮下 修行先生

### DATE

#### 【専門分野】

呼吸器病学・感染症学・化学療法学など

#### 【認定資格】

日本呼吸器学会専門医・指導医

日本感染症学会専門医・指導医など

### NEWS

## 災害時に備えた、井戸ができました

### 災害時にも活用可能

総合医療センターホスピタルガーデン内に災害時に活用可能な地下水膜ろ過システムを搭載した井戸が完成しました。このシステムは災害拠点病院の指定要件の1つである『災害時に少なくとも3日分の容量の受水槽を保有しておくこと又は停電時でも使用可能な地下水利用のための設備を整備しておくこと』を補完するものです。井戸によって地下150メートルから毎分434リットルの地下水を汲み上げ、不純物を取り除くなどの処理を行うことで飲料可能な水を生成します。稼働したシステムにより総合医療センターの3つの受水槽には生成された水が送られ、院内で使用されるとともに、耐震構造を備え、災害にも強いシステムは非常事態時における水の安定供給といった役割が期待されます。



## 新型コロナウイルス感染症関連部門のご紹介

### ゲノム解析センター

感染症は、遺伝子解析技術の進歩に伴い、迅速・高感度に検査報告が出来るようになってきました。当センターでは、リアルタイムPCR装置を用いて新型コロナウイルス感染症を中心に結核菌をはじめとする種々の呼吸器感染症、眼科領域の感染症など様々な分野の遺伝子検査を行っています。また、24時間以内に全自動次世代シーケンサー(NGS)によるコロナウイルスのゲノム解析を報告し、臨床に役立つ遺伝子の検査・解析を行っています。



### 大阪コロナ重症センター開設

当院は、多くの大阪府民の命を守るため、最大限に同感染症患者を受入れる体制を確保しています。

そして、2021年11月、大阪府からの要請を受け、当院施設内に「大阪コロナ重症センター」を開設いたしました。

同センターは、専用病床20床を有し、ECMO、人工呼吸器、生体情報モニタなどの医療機器を設置しており、新型コロナウイルス感染症の重症患者が急増した場合に備えて、整備された施設です。

